

1. 酒匂川の氾濫から町を守るための対策を

昨今、地球温暖化の影響から世界中で気象に異常が生じている。

我が国でも台風シーズンは以前より長く、規模も巨大化し、その強力な暴風雨により、全国各地に甚大な被害が発生している。

特に、昨年 10 月の台風 19 号は史上最大規模となり、全国 71 河川で 140 箇所の堤防が決壊した。

本町でも、水辺スポーツ公園が冠水してしまったが、被災後約 5 ヶ月が経ち、あらためて酒匂川や町内河川の状態を見てみると、流木や護岸の崩れなど、その爪痕が至る所に残されている。

また、酒匂川の中流域、特に水辺スポーツ公園付近では、大小の石や砂が 2 ～ 3 m も堆積しており、増水時が心配だという声も多く聞かれる。

洪水対策として、台風直撃の可能性が高まる中では、これまでの史実や経験を基に、被害を最小限に食い止める『減災』の取り組みが、今こそ重要と考え、次の事項を問う。

- ① 過去の水害の教訓をどのように対策に生かしているか。
- ② 河川管理者への河床掘削の要請とその整備計画は。
- ③ 町による被災後の現状把握と課題整理を踏まえた具体の対応策は。
- ④ 洪水ハザードマップを踏まえた各種訓練の今後の展開は。